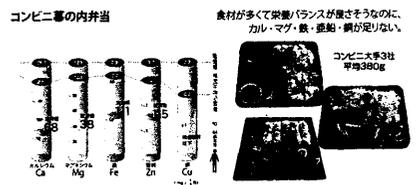


新型コロナウイルス感染者

ホテル療養の問題

感染力は強くても毒性は低いオミクロン株。軽症者も多く、致死率は季節インフルの1/6。むしろホテル療養のミネラル不足が深刻です。

食材が多くてもカル・マグ・鉄・亜鉛・銅が足りない幕の内弁当



『心身を害するミネラル不足食品』(2021/2)より

致死率は大幅に下がった

2022年1月以降の東京都内のPCR陽性者は25万人を超えました。死者は41人で、致死率(感染し病気になった人が死亡する確率)は0.016%。

2021年末までの0.842%と比べると50分の1に下がりました。

これまでのパンデミックでは致死率はどのようなものだったのでしょうか。

第一次世界大戦中の1918年に始まった俗に「スペイン風邪」と呼ばれるスペインインフルエンザのパンデミックは、被害の大きさに際立っています。

患者数、死者数の推定は難しいのですが、患者数は世界人口の25~30%(WHO調べ)、あるいは、世界人口の3分の1、または約5億人で、致死率は2.5%以上。死者数は全世界で4,000万人(WHO)。5,000万人、一説には1億人ともいわれています。

日本国内の致死率は約2%と計算されています。

アジア風邪(アジアインフルエンザ)(1957-1958)の致死率はスペイン風邪よりかなり低かったとされています。

死亡者の大半は乳児と高齢者で、死者数

は世界全体で200万人以上と推定されています。

1968年に始まった香港風邪(香港インフルエンザ)は、アジアインフルエンザよりさらに軽症で、世界的に臨床症状は軽く、低い致死率でした。

オミクロンは季節インフルの1/6

例年のインフルエンザ感染者数は、国内で推定約1,000万人です。インフルエンザの流行によって直接的、間接的に生じた死亡を推計する超過死亡という概念を用いると、年間死者数は全世界で約25~50万人、日本で約1万人と推定されています。国内のインフルエンザ致死率が0.1%というのは、ここから導き出された数字です。

例年のインフルエンザによる死亡の多くは高齢者、それもかなり弱った方々によるものです。

オミクロン株は、感染力は強いものの毒性は低く、軽症者が多くなっています。そのため、オミクロン株を主とした2022年1月以降の新型コロナウイルス感染症の致死率は0.016%と、季節性インフルエンザの6分の1程度となつて

います。今後高齢者に感染が広がると、致死率が上がる可能性はありますが、高齢者はワクチン接種済みの人が多く、極端に死者が増えるとは考えにくい状況です。

新型コロナウイルスの致死率は、季節インフルの3倍というフランスからの報道もありましたが、フランスの医療調査は入院患者を母数としているので、比較してはいけません

ホテル療養のミネラル不足問題

軽症の陽性者の自宅療養は、外出が禁止されています。しかし、支援が不十分なため、買い物に出かけざるを得ず、結果として感染を広げていると予想されます。

一方、宿泊療養では、3食提供されているので問題がないように見えます。

しかし、最近ホテル療養を終えた患者さんを診る機会が増え、重大な問題点が見えてきました。

彼・彼女らに聞くと、ホテルでは部屋から出ることができず、すべて仕出し弁当。野菜は少なく、果物もついていません。

飲み物はミネラルウォーターのみ。差し入れは認められません。治療は何もなく、熱が出たときの解熱剤のみ提供されます。

仕出し弁当は『食品と暮らしの安全』誌で何度も指摘されてきたように、食事摂取基準では食べ続けるとミネラル不足で病気になるとされています。

療養時の状況を尋ねると、2~3日で食欲がなくなり、口内炎・口角炎が出て、吐き気がすることもあったようです。

ホテル療養が終わった後も体調が回復せず、咳が出続け倦怠感も強いので、職場から直ちに復帰するように言われたが難しいと

言っています。

乱暴な言い方をすれば、刑務所より酷い食事が提供されて、ホテル療養が、別の病気を引き起こしている可能性があるのです。

感染したと思ったら「麻黄湯」

オミクロン株では味覚障害は2%しか出ないという報告があります。しかし、仕出し弁当を10日以上食べ続けたら亜鉛不足で味覚・嗅覚障害を起こす恐れが大了。

持病がある人は、ホテル療養中でも調剤薬局や医療機関から薬を宅配便で送ってもらうことは認められているので、患者さんから咳や頭痛に漢方が欲しいという連絡を受けて届けたこともあります。

現状では、患者はほぼ放置という状況ですが、咳や呼吸困難に対応した漢方薬の情報も提供して、選択すればそれを服用できる体制が必要です。弁当しか提供されないのであれば、ミネラルやビタミン剤などの提供も必要です。



漢方薬の「麻黄湯」は単独でも有効です。価格も安くても入手も簡単なので、感染したかと思って検査を受けたら、結果が出るまでの間に入手して飲んでおいた方がいいでしょう。主治医に処方してもらうのも一つの方法です。

都内の病院で、20歳の学生が発熱して受診したら、PCR検査の結果が出るまでの間に飲むように処方された薬が麻黄湯でした。

母親から板藍根も渡されていたので一緒に服用したら、検査結果が出る前に解熱し治ってしまったという例もあります。

寺澤政彦(医師)